

令和 4 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	67		学校名	茨城県立つくば工科高等学校					課程	全日制		学校長名		久 松 政 信			
教頭名	榊 原 洋 子				堀 川 洋							事務（室）長名		沢 辺 貞 男			
教職員数	教諭	40	養護教諭	1	常勤講師	0	非常勤講師	1	実習教諭、実習講師、実習助手		12	事務職員	4	技術職員等	4	計	62
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数			
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	機械科			26	1	40	0	31	2			97	3	3 クラス			
	ロボット工学科			36	2	37	1	26	2			99	5	3 クラス			
	電気電子科			31	0	26	3	36	1			93	4	3 クラス			
	建築技術科			30	9	36	3	29	9			95	21	3 クラス			

2 目指す学校像

「豊かな人間性と科学する心をそだてる」を教育目標に、心身共に健全で豊かな人間性を持ち、産業社会のどのような変化にも柔軟に対応できる人材の育成と地域・民主社会に貢献できる人材の育成を通して、地域に密着した開かれた専門高校を目指す。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	技術力・創造性・探究心を備え、未来の社会を切り拓く人財の育成を目指す。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	技術の習得・ものづくりの精神の育成をし、幅広い進路希望を実現する教育課程を編成・実施する。
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	ものづくりへの興味・関心を持ち、最後までチャレンジする生徒を求める。

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
教 務 部	・中学生の普通科志向が強く、志願者数が定員に満たない状況が続いてしまっている。 ・心因性や病による長欠など特別な配慮を要する生徒が増加している。 ・基礎学力が低く、学習習慣が身についていない生徒が全体的に多い。 ・ＩＣＴ機器等を使用した授業が活発化してきた。	・新校に向けて学校説明会等のＰＲ活動の継続と工夫。 ・カウンセラーの活用や生徒・保護者・教職員間の連携強化。 ・基礎学力の定着・向上を目指した、学校設定科目の運用と工夫。 ・中途退学・転学者数の削減を意識した教職員間の連携強化。 ・本校の学科改編の具体化。 ・教務に関する業務改善を図り、業務の効率化と教職員の負担を軽減する。 ・タブレット端末等を活用した効果的な授業の工夫。
進路指導部	・売り手市場が予想されるものの、依然として新型コロナウイルスが終息に向かわず、景気悪化も予想されるため、先行きが不透明な状況にある。 ・世界経済の先行きが予想できない状態にある。注意して見ていきたい。 ・ここ数年間、就職決定率が高いゆえに、今年度も就職希望者が多くなると予想している。進路希望調査でも就職希望者が多かった。一方で、専門学校への進学希望者が減った。	・景気が悪化した場合にどう対応していくか。 ・マナー・コミュニケーショントレーニングの維持・継続。 ・進路マップの効果的な活用方法の構築（特に進路面で） ・進路未決定者数ゼロへの飽くなき追求。 ・大学進学者数の2桁を維持する。 ・学校推薦型選抜基準の上昇や総合型選抜枠の圧縮等への対応。 ・進路指導に関する業務改善を図り、業務の効率化と教職員の負担を軽減する。（データ入力数の取捨選択）
生徒指導部	・問題行動で指導を受ける生徒数は減少傾向にあるが、様々な特性や複雑な家庭環境など個々の生徒の抱える課題は多い。 ・スマートフォンを利用したSNSによるトラブルは依然として見られる。 ・自転車の登下校中の事故やマナー違反、バイクによる事故が起きている。	・集会時の注意喚起や各学年で実施しているスマホや交通安全の講話に加えて、教科指導や特別活動など学校の活動全般を通じて、他者への思いやりや他者を認め協働していく力を育んでいく必要がある。 ・授業中の生徒観察や個別面談等で日頃から生徒の情報を共有し、生徒の課題に寄り添い、生徒の心の成長を支援できる組織体制をつくっていく必要がある。 ・生徒指導に関する業務改善を図り、業務の効率化と教職員の負担を軽減する。
特別活動部	・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、学校行事等で生徒が中心となる活動ができていない。 ・自主的、主体的に活動できる生徒や、自ら考えて動くことができる生徒が少ない。 ・部活動入部希望者は増加傾向にあるが、定着率があまり高くない。	・生徒の自主的活動の充実・拡大を図り、活動に必要な場や機会を計画的に確保し、一貫した指導体制が重要である。 ・生徒一人一人の発達の段階を踏まえたキャリア教育を推進し、「キャリアパスポート」を活用して活動を記録・蓄積・振り返る機会を設けることが重要である。 ・部活動を充実させることにより、定着率の向上をめざす。 ・特別活動に関する業務内容の見直し改善を図り、業務の効率化と教職員の負担を軽減する。

5 中期的目標

- 1 基本的な生活習慣を確立させるため、ルールやマナーなど道徳心の育成に努めるとともに、生徒が常に目標を持って学校生活を続けられる学校環境を整備する。
- 2 より良い「魅力ある授業」を展開するために、生徒一人一人に目を向け、生徒の自主・自立を促す教育を提供する。
- 3 生徒の科学する力・技術力向上のための取組に積極的に挑戦させ、生徒自らが科学する心を育てられる学習の場をつくる。また、多様な学習をととして、より専門的な職業資格取得の推進に努める。
- 4 キャリア教育の充実に努め、3年間の高校生活全般に於いて、基礎的・汎用的能力を向上させる。
- 5 「学ぶこと」と「人としての在り方・生き方」をしっかりと意識させ、社会の一員として「社会貢献」の自覚を深めさせる。
- 6 教職員の働き方に関する意識を改革し、持続可能で創造性豊かな教育活動を推進する。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 学習指導の充実	①教員の授業力の向上、生徒の基礎学力の定着 ②専門教育の充実
2 生徒指導の充実	③基本的な生活習慣の確立 ④家庭や地域社会、関係機関との連携
3 特別活動の充実・発展	⑤生徒が主役になる特別活動の充実 ⑥部活動の活性化
4 進路指導の充実	⑦キャリア教育の計画的な実施と指導の充実 ⑧進路未定生徒ゼロ、及び早期就職内定率100%の早期実現
5 保護者や地域社会との連携	⑨保護者とのコミュニケーションと共通理解 ⑩地域社会との積極的な連携と本校の広報活動の充実
6 学習環境の整備	⑪綺麗な学校づくり ⑫安全安心な学習環境づくり ⑬教職員の働き方に関する意識改革